

環境共生資源学特論実験 (2単位)

担当者氏名 鈴木伸一

◆学習・教育目標

近年の様々な地球環境問題の進行とそれらに対する人々の意識の高まりは、国内のみならず海外においてもこれからの社会における生活環境の整備が緊急の課題として、その対応が迫られている。人間の環境あるいは自然との共生は、生活環境改善のための糸口として現代社会のキーワードともなっている。

本特論実験では、動物・人間を含めた全ての生物の生活基盤としてきわめて重要な「植生」を環境共生資源として取り上げ、その再生・管理の実例現場における観察・調査によって、資源としての植生の望ましい利用方法について考察する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

<u>自然再生</u>	<u>環境保全林</u>	<u>生態学的植栽</u>	<u>郷土樹種</u>
<u>潜在自然植生</u>	<u>明治神宮</u>	<u>自然林</u>	<u>植生調査</u>

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	自然林の観察・調査（第1～3週）	人為的干渉や影響の異なる各森林タイプについて、相観・構造・種組成などの観察・調査。場所は明治神宮の社叢林、目黒区白金台の自然教育園の森、近郊の里山などを計画している。	基本的に集中授業の形態で実施し、学外における野外実習を計画している。現場における植生や植物を視る目・同定能力、自然に対する洞察力を養い、植生の質を見抜く感性を身につけることを狙いとしている。実習の時期を9月中旬としているが、観察に適した状態から実施日を決定したい。5～6月の土日の実施もありうる。
2	二次林の観察・調査（第4～6週）		
3	植栽林の観察・調査（第7～9週）		
4	環境保全林の観察・調査（第10～13週）		
5	植生生態学的手法に基づく森づくりの演習（第14～15週）		
		植栽適正樹種の選定や樹種毎の植栽配分などについて、野外実習で得られたデータを基にした演習を行う。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

瓦礫を活かす「森の防波堤」が命を守る／宮脇昭／学研新書（2011年）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

みどりの環境デザイン／日本植木協会コンテナ部会（編）／東京農業大学出版会（2001年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

成果レポート（60点）とプレゼンテーション（40点）をもとに評価する。

◆その他受講上の注意事項

指定した、教科書、参考書、配布資料を熟読しておくこと。